



コロンビア共和国 派遣期間 2013年4月～2016年3月

ボゴタ日本人学校 帰国報告

～ 「現実を魔法に変える国」 コロンビアでの教育実践 ～

美深町立美深小学校

教 頭 阿部 光宏

1 コロンビア共和国について

(1)はじめに

縁あって在外教育施設へ派遣していただくこととなり、平成25年4月から平成28年3月まで、在コロンビア日本国大使館附属日本人学校（ボゴタ日本人学校）での指導に当たった。コロンビアでの3年間は私にとって、あらゆる意味で新鮮であると同時に大変貴重な体験となった。その概略について紹介する。

(2)コロンビア共和国及び、ボゴタ市の概要

コロンビア共和国は南米大陸の北西部に位置し、北はカリブ海、西は太平洋に面し、パナマ、ベネズエラ、ブラジル、エクアドル、ペルーと国境を接している。

かつては麻薬組織と政府の全面戦争、反政府ゲリラによる誘拐事件や爆破事件などが発生していたが、現在は「現実を魔法に変える国」をキャッチフレーズに治安の改善や観光客の誘致に積極的に取り組んでいる。

首都ボゴタは、人口約800万人の南米大陸5番目の大都市である。標高2650mに位置するため、年間の平均気温が15℃前後と常春の気候で過ごしやすい。カリブ海地域は真夏の気候、アマゾン地域は亜熱帯の気候であるため、コロンビアでは「季節は選ぶものである。」という。それは、行きたい時に、好きな気候の場所に行くことができるからである。ボゴタでは、トランスミレニオと呼ばれる連結バスが専用レーンを縦横に走るが、人口の集中による交通渋滞が日常化しているのが課題である。



【日本から見て地球の裏側に位置するコロンビア】



【ボゴタ中心部の様子】

(3)コロンビアの教育制度

コロンビアの教育制度は、5年の初等教育（小学校）と、4年の前期中等教育（中学校）、2年の後期中等教育（高校）、5年を平均とする高等教育（大学）から成る。義務教育は初等教育と前期中等教育の計9年間であり、新学期は1月から始まる。公立学校の多くは、午前と午後の2部制であり、児童生徒も教師も入れ替わる。「南米のアテネ」と呼ばれるボゴタには大学も多く、教育に対する関心は高い。授業料は無償であるが、教科書は基本的に有料であり、未就学に関する罰則はないため、経済的な理由等により子どもを就学させることができない家庭も少なくない。他に、イギリス系・ドイツ系・アメリカ系のインターナショナルスクールがある。

2 ボゴタ日本人学校の概要，特色ある教育について

ボゴタ日本人学校は，社団法人日本文化協会の設置による在コロンビア日本国大使館の附属日本人学校である。ボゴタ市北部の閑静な文教地区に所在し「めざせ地球人」を合い言葉に知・徳・体のバランスのとれた児童生徒の育成を目指している。児童生徒数は近年20名前後を推移しているが，少人数である特色を生かし，個に応じたきめ細やかな指導を展開している。平成28年度は，文部科学省派遣教員が6名，現地採用スタッフが4名である。以下，本校の教育活動について紹介する。

(1) 学校経営の概要

学校教育目標と望ましい児童生徒像は次の3点である。

- 豊かな人間性・国際性のかん養…… 相手の立場を尊重し，協力する子ども
- 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成
…… 自ら学び，よく考える子ども
- 安全の保持と心身の健康増進 …… 心豊かにたくましく生きる子ども

平成28年度は，下記の努力目標を設定し，様々な教育活動に取り組んだ。

- ①学力の充実（知） ②道徳指導の重視（徳） ③生活指導の重視 ④健康で安全な生活と体力向上の推進（体） ⑤国際理解教育の推進 ⑥家庭との連携強化
- ⑦環境整備，施設・設備の充実 ⑧教育専門職としての研修推進



【校舎全景】

(2) 語学学習（スペイン語，英会話）

コロンビア国内の公用語であるスペイン語の学習（週1時間）と英会話（小学部週1時間，中学部週2時間）に継続して取り組んでいる。当地での生活に欠かすことのできないスペイン語の習得や，様々な場面で必要となる英会話の技能について現地採用講師による体験的な学習を通して，児童生徒は興味・関心をもって楽しそうに学習している。平成28年度は，スペイン語と英会話の授業の参観日を年間3回に増やし，学習の様子を保護者にも積極的に発信しつつ活動を推進した。



【現地採用講師との楽しい学習の様子】

(3) コロンビア学習

総合的な学習の時間では，1年間をかけてコロンビアの歴史や文化，経済や社会について調査活動を行っている。食べ物や遊び，観光地や産業など，内容は多岐にわたるが児童生徒は皆，大変意欲的に活動している。中間発表会を経て2月にはその成果を発信する「コロンビア学習発表会」を実施している。当日は，大使館やJICA，JETROをはじめ各日本企業の方にも来校いただき，専門的な助言を賜りながら学習の充実に生かしている。

(4) 現地校交流

本校と隣接する現地校「ラ・サジェ校」の御厚意により年1回の学校訪問をさせていただいている。本校の児童は学年別に分かれラ・サジェ校の各クラスに入り授業を体験する。スペイン語が得

意でない児童生徒は戸惑うこともあるが、うまく表現できないときには英語で話したり、身振り手振りで伝えたりしながら、すぐに打ち解けて楽しそうに交流する姿が見られた。コロンビアならではのサルサ、バンブーコなどのダンスの授業や、キリスト教に関わる内容に驚きながらも瞳を輝かせて取り組む児童の姿が見られた。児童生徒にとっては、現地校の生活を体験できる数少ない機会であるので、相手校の負担に配慮しながらも継続したい活動である。 【ラ・サジェ校での算数の授業の様子】



(5) 修学旅行

平成28年7月に、小学部3年生以上の参加によるメデジン市近郊への修学旅行を実施した。治安の関係から航空機を利用するとともに現地警察との連携を図りながら実施した。実施に当たっては、単なる見学に終わることのないようにできるだけ体験活動を取り入れるよう配慮した。今回は、メデジンの「花祭り」に向けてシジェータと呼ばれる花飾りを実際に作る体験を取り入れた。現地サンタエレナ村の花農家の方から花祭りの歴史についての説明をしていただき、その後2チームに分かれて花飾りづくりに取り組んだ。その際には、サンタエレナ村に住むコロンビア人の児童にも会場に来てもらい一緒に活動した。その後、日本の折り紙を教えたり、「ふるさと」を合唱したりして交流することができた。本校の児童にとっても現地の子供達と触れ合う貴重な機会となった。



【シジェータづくりを体験】



【サンタエレナ村の子供との交流】

その後は、メデジン市独自の公共交通機関メトロ（電車）やメトロカブレ（ケーブルカー）の乗車体験を通してボゴタ市の交通問題について考えることができた。5月の現地への下見から当日まで、大使館や現地旅行代理店をはじめ、様々な方の御協力をいただき安全な修学旅行を実施できたことに心より感謝している。



【メデジン市内を展望台より一望】

(6) 避難訓練

避難訓練を年に4回実施している。火災や地震を想定した訓練は日本同様であるが、特色ある取組としては、登下校時の危機回避及び、学校への不審者侵入を想定した訓練がある。本校は治安上の理由から、児童生徒のほとんどが通学にスクールバスを利用している。そのバスが登下校時に襲撃されたことを想定した訓練を実施している。児童生徒には、犯人の顔を絶対に見ないことや、スペイン語が話せないふりをして顔を伏せることなどを含め、不審者を極力刺激しないよう継続して指導する。日本とは違い、危険と隣り合わせの生活であることを実感する活動である。



【スクールバス襲撃を想定した避難訓練】

(7) 長期休業中の学習サポート

平成25年度より、私の提唱により実施することとなった。日常の授業で定着が不十分である内容の復習や、日本へ帰国した後の進学、及び受験対策を行った。児童生徒の学力向上に寄与することができたと考えている。快く協力していただいた派遣教員の皆さんに感謝している。

3 在任中の教育実践について

3年間の在任期間中を通して、小学部5・6年を担任し、教務主任として教育活動の推進に当たった。以下、私の実践の一部を紹介する。

(1) 豊かな心をはぐくむ道徳教育の推進

在任期間を通して小学部5、6年生を担任し、主に小学部の各教科・各領域の指導に取り組んだが、特に力を注いだのは道徳教育の推進である。校内研修の組織を活用した各学期1回(年間3回)の研究授業の実施はもとより、毎回の道徳の時間の充実を心掛けた。大切にすることは、豊かな心を育むことと、日本人としての自覚と責任をもちながら世界で生きる国際人としての意識を育てることである。平成28年度の1学期は「自由と自分勝手【1-(3)自由, 自律・責任】」という主題について「うばわれた自由」という資料を基に学習した。2人の登場人物の「自由の捉え方の違い」について考えさせることを通して、自由と自分勝手は違うということに気付かせることができたと考えている。2学期は「世界の人々とつながって【4-(8)国際理解・親善】」という主題について「ペルーは泣いている」という資料を基に考えた。ペルーの女子バレーボールの指導に赴いた加藤明の心情の変化を通して海外で生活する自分たちを見つめ、外国の人々との交流の在り方についての理解を深め、国際交流に努めようとする意欲を高めることができたと考えている。3学期は「礼儀は心のあらわれ【2-(1)礼儀】」という主題について「江戸しぐさ」という資料を通して学習した。江戸時代の人々がお互いに気持ちよく生活するために様々な工夫をしていたことに気付くことを通して、日本人としてどのように生きていくべきなのかについて改めて考える機会になったと思う。継続して取り組んだ研究内容は下記のとおりである。

担任する3名の児童が道徳の時間について、「自分の思いを自由に表現できるから好き。」「友達の考えと自分の考えを比べながら考えられるから好き。」「登場人物の心情を考えながら学習するのが好き。」と答え、興味・関心をもって学習するようになったことは大きな成果であると思う。



【「道徳コーナー」の取組】

- ◇「道徳の時間」の充実に向けて取り組んだ主な研究内容
- ① アンケート調査による児童の実態調査、及びその活用
 - ② 資料のよさを生かす提示の工夫
 - ③ 資料の登場人物の心情に寄り添うための「構造的な板書の工夫」
 - ④ 自分の気持ちの変容をみとる道徳ノート、道徳ファイルの活用
 - ⑤ 自ら考え、行動するための「私たちの道徳」の活用
 - ⑥ 道徳実践意欲を喚起する「道徳コーナー」の設置



【江戸しぐさ「かさかしげ」の体験】

世界の国々と交流するについて書えよう。

ペルーは、どのような思いでペルー女子バレーボールチームの監督になったのでしょうか。

・なんとでも話してみたい。 。

・国の文化や習慣の違いが面白い。 。

・不安だが、ペルーチームのため頑張りたい。 。

何人かの選手が辞めてしまったとき、アキラはどのような気持ちだったのでしょうか。

・この授業の準備に頑張った。 。

・このまま、みんな帰ってしまわないように。 。

・文化や習慣の違いが大変面白い。 。

・まずは、私がペルーの習慣などを理解しよう。 。

・いつか私の思いも分かってくれるかな。 。

自分がペルーの人になっていくように感じたアキラはどのような気持ちだったのでしょうか。

・分かってもらえるように話そう。 。

・ペルーの文化についても話そう。 。

・日本の文化も話そう。 。

「上を向いて歩こう」を、ペルーの選手たちが歌っているのを聞いたとき、アキラは、どのような気持ちだったのでしょうか。

・自分の思いが、国を越えて伝わった。 。

・選手たちと分かっていくのが嬉しかった。 。

・これがいざというときに役に立つかもしれない。 。

どの国の文化や習慣の違いが面白い。 。

・尊重し合いながら交流することが大切だ。 。

・スペイン語や英語の習得も、もっと進んで話そう。 。

・いろいろな国を教えるのもいい。 。

・近所に住んでいる外国人の子供たちと話そう。 。

・日本の文化や習慣、習慣を進んで話そう。 。

【「世界の国々とつながって」の実践より(板書計画)】

(2) 思考力・判断力・表現力を育てる算数科における問題解決的な学習の推進

在任中、主に小学部3～6年生の算数科の指導を担当した。私の専門教科であるので、一人一人の児童に「確かな学力」を定着させることを目指し授業改善に取り組んだ。日常の学習の様子から、自分なりの考えをもち、主体的に解決しようとする姿が見られ、学習内容を丁寧にノートにまとめることもできているが、少人数での学習形態が続いているために、多様な考えを基に問題を解決するという経験が不足しがちであった。算数科における問題解決的な学習を通して、「導き出す答えはひとつであっても考え方はいろいろあること」に気付くことはもとより、それぞれの考え方の共通点や相違点に目を向け、より効率的な考えを用いることができる能力をいっそう高めたいと考えた。大切にすることは、児童の実態について正確に把握することである。校内研究授業を実施するにあたり、毎回「事前調査」を実施したが、その際に重視した点は、右記のとおりである。以下、実践した「指導法の工夫」について紹介する。

- 本単元の学習に直結する考え方や、既習の知識・理解、技能について把握すること
- 調査した後、本時の授業を行うまでの間に分析を十分に行い、本時の展開の修正を図れるように早期に計画的に調査を実施すること
- 単に実態を把握するにとどまらず、本時における発言やつぶやき、つまづきについても予測し、本時の学習に有効に活用できるものにする

①問題解決的な学習過程を理解し、主体的に学習するための工夫

○問題提示の工夫

児童の課題解決意識を持続させ、主体的な学習を展開するためには、魅力ある問題を提示することが必要である。「問題提示の工夫」にかかわる具体的な配慮事項は次のとおりである。

- ・具体物や半具体物を提示し、日常生活とのかかわりがもてるような問題を提示する。
- ・既習事項を基にして、解決の方法がある程度予想できるような問題を提示する。
- ・数学的な面白さを包含し、「解いてみたい」「解決してみたい」という問題を提示する。

○課題設定の工夫

算数科の学習を通して、問題場面から「学習課題」を設定するまでの流れを大切に扱った。問題解決的な学習過程において、問題提示から機械的に学習課題を設定するのではなく、提示された問題から解決すべき本質を見抜き、児童自らが課題を設定することが大切であると考えた。具体的には、既習事項を生かしながら「〇〇くらいになるんじゃないかな？」という数値の予想や「～の考えが使えるんじゃないかな？」「…が前の時間との違いだ。」というような思考を基に学習課題を設定することを継続した。児童の思考の流れに沿った自然な学習課題設定を行うことを通して、児童自らの主体的な学習を可能にすることができたと考える。

○問題解決的な学習過程（学び方）の定着に向けた工夫

「問題提示」「課題設定」「個人思考」「集団解決」「まとめ」「練習」という一連の「問題解決的な学習過程（学び方）」を児童自らが理解していることが、主体的な学習を展開する上では重要だと考えた。毎日の学習で問題解決的な学習を継続し成果を上げることができた。

②問題解決の過程を分かりやすくまとめるための工夫

○学習の足跡や、自らの考え方の変容を残すノート指導の工夫

学習の流れがひと目で分かり、後の学習で戸惑った際にいつでも振り返ることができるようなノート指導の工夫に取り組んだ。継続して指導した内容は次のとおりである。

- ・問題場面から学習課題を設定する際に考えた「予想」を記述すること。
- ・「こうすればできるんじゃないかな。」「この考え方が使えるそうさ。」といった自分の「考え方」を記述しておき、学習後も振り返ることができるようにしておくこと。

- ・色を工夫したりシールを貼ったりすることを通して、重要な内容を分かりやすく記録し、後の単元の学習でもすぐに活用できるノートにすること。

○学習の流れ及び、児童の考え方の変容が捉えられる構造的な板書の工夫

上記のような児童の学習の様子を的確に捉え、その内容を分かりやすくまとめる板書の工夫に取り組んだ。継続して配慮したことは次のとおりである。

- ・1時間の学習の流れが、ひと目で分かる板書にすること。
- ・必要に応じて背面黒板や補助黒板を利用し、一度書いた板書をその時間は消さないこと。
- ・板書をカメラなどで撮影し、必要に応じて次時や次単元の学習に活用すること。

③問題解決の過程や、自分の考えの変容を分かりやすく説明するための工夫


上記の「ノート指導の工夫」に加え、問題の解決過程をまとめる際の「ホワイトボードシートの活用」に取り組んだ。指導にあたり配慮したことは次のとおりである。


- ・ノートの内容を書き写すのではなく、要点をまとめること。
- ・自分の考えの変容も記述すること。
- ・文字や数字の色を工夫したり、図を取り入れたりして分かりやすくすること。

※算数科の研究授業の実践の一部について、実際に発行した学級通信により紹介する。

算数の授業から...

4日(水)にJICAの指導員と、コロンビア国内の教師が来校し、5年生の授業を公開しました。2人とも、自分の考え方や、問題解決の処理の過程をしっかりとまとめ、分かりやすく説明することができました。着実に力を付けてくれていることを実感できる授業となりました。





う～ん、先生方の方が多い...
2人とも、とても説明が上手です

メジンの先生や、JICAの人たちが来たので、ちょっと緊張したけど、少しずつ楽しくなってきました。先生が出した問題は、「正方形が30個ある時、ぼうは何本いるかな?」というものでしたが、すぐに簡単な方法を思い付いたのでやりやすかったです。ぼくは、最初の正方形の4本を1と3に分けました。だから、 $1+3 \times 30$ という式にしました。みんなにほめられて、とてもうれしかったです。(L, Sくん)

メジンや日本の先生に見られながらの授業でした。問題は、「何本のぼうで、30個の正方形が作れるか?」でした。最初は地道にひとつずつ増やしていきましたが、発表の時に、その考えを式に表すことができました。それを計算すると、「あれれ?!」、地道方式でやった時と、答えが違うではありませんか!というわけで、この方法の弱点は、計算ミスの危険性が高い!ということが分かりました。先生方に「すごい!」と言われ、よかったです。(R, Mくん)



0 1 2 3 4 ... 30
4 7 10 13 ... 91
式 $1+30 \times 3 = 91$
A 91本
 $1+2+3+4+5+...+30$
 $4+7+10+13+16+...+91$
A 101本

R, Mくんの考え方

正方形の数が(個)	1	2	3	4
ぼうの数(本)	4	7	10	13

4
4+3
4+3+3
⋮
 $4+3+3+\dots+3 = 4+3 \times (30-1)$
3が(30-1)個 = □ 答え

考え方 Sくんの

図をかいて、ぼうの並び方を見ると...



1+3+3+...+3 = 1+3×□
3が30個 = □

実は、今回の授業場面は、昨年の中南米校長会での研究授業と同じ場面です。昨年、T, Hさんは1人で考え、問題を解決しました。頑張ったね。

T, Hさんの学習ノートです。とても丁寧で分かりやすいですね。5年生の2人もこのようにまとめられるように頑張ろう!



正方形の数を考える
10個の正方形を作るときは何本のぼうが必要か?
式 $1+3 \times 10 = 31$
A 31本
式 $1+3 \times 20 = 61$
A 61本
式 $1+3 \times 30 = 91$
A 91本
式 $1+3 \times 40 = 121$
A 121本
式 $1+3 \times 50 = 151$
A 151本

(3) 地域との連携

日本人学校の様々な教育活動を推進する上で、保護者・地域と連携することは日本国内以上に必要不可欠である。ここでは、コロンビア在住の様々な皆様と共通理解を図りながら実践した活動の一部を紹介する。

①外交団バザー

毎年5月に、ボゴタ駐在の各国の大使夫人が主催する「外交団バザー」が開催される。世界各国の料理や踊り、民族衣装などの文化が紹介される。ボゴタ日本人学校には毎年、和太鼓演奏の依頼があり、新年度に入るとすぐに練習に取り組んでいる。近年は小学部低学年の児童が多く、リズムを取るのが大変だが、「朝の太鼓」の時間や、音楽の時間に上級生が親切に教え、瞬く間に上達する姿が見られた。和太鼓演奏は他にも、運動会や学芸会、きさらぎ祭でも演奏の機会があり、4曲のレパートリーの中から2曲ずつ演奏している。児童生徒の入れ替わりにより編成上の困難もあるが、日本人、コロンビア人共に演奏を楽しみにしており、日本文化の発信の観点からも今後も是非継続していきたい取組である。



【外交団バザーでの迫力ある演奏】

②運動会

毎年6月上旬に「ボゴタ大運動会」を開催している。児童生徒が出場する種目はもとより、保護者、在留邦人、コロンビア人が出場する種目もあり、当日は200人を超える参加者の御協力を得ながら盛大に実施している。私は北海道出身ということもあり、「ボゴタソーラン」の指導を主に担当した。小学部1年生から中学部3年生までの体力差を考慮しながら演舞を構成するのは大変であったが、児童生徒は熱心に練習を重ね、会場いっばいに響き渡る掛け声と共に踊り、来場者から大きな拍手をいただいた。係活動では、一般参加の皆様に参加していただき、グラウンド内に誘導する招集係を担当した。スペイン語を用いて多くのコロンビア人に競技内容を説明したり指示を出したりすることは難しかったが、事前に選手登録を行い、名簿を拡大して掲示することによってスムーズに進行することができた。

また大使館、木曜会（日系企業会）、JICA、日本人学校教員、PTA役員との5チームによるリレーは白熱し、好レースが展開された。私も毎年出場したが、高地での全力疾走は体力的にはかなり厳しいものであった。しかし、単なる学校行事ではなく、ボゴタ在住の日本人の皆様が楽しみにしている地域行事を企画・運営することができたことは大変貴重な経験であった。



【ボゴタソーランの指導】

③学芸会

毎年10月上旬には、演劇と音楽を中心とした学芸会を実施している。私は3年間を通して企画・立案に携わったが、児童生徒や各担任の個性を生かしながら充実した活動を展開することができた。私自身は、1年次に「そんごくう」、2年次は「オズの魔法使い」、最終年度は「夢から醒めた夢」とミュージカル3部作に取り組んだ。少人数であることから1人2役は当たり前で、途中で着替えをして再登場させるなど子供達には忙しい思いをさせたが、せりふや歌を通して日

常の学習の成果を伸び伸びと表現させることができた。特色ある取組として、現地音楽のフォルクローレが挙げられる。ペルー人の先生が毎週来校し、児童生徒にサンポーニャやケーナといった南米独特の楽器の指導をしてくださっている。当日はオープニングにアンデスならではのフォルクローレの演奏を行い、観客の喝采を受けている。



【南米らしいフォルクローレの演奏】

④きさらぎ祭

毎年2月にPTA主催による「きさらぎ祭」を開催し、当日は500人を超える日本人とコロンビア人が来校する。児童生徒会主催による野菜・古本販売に加え、日本国大使館及び、在コロンビア日本企業による日本食の屋台販売等も実施している。木曜会、大使館、日本人学校派遣教員の配偶者で組織する「さくら会」によるチャリティバザーも好評で、各店舗の売り上げの一部を寄付していただき、PTA活動の充実に生かしている。私も妻と共に餅つきの実演を行い日本文化の発信に努めた。在留邦人やコロンビア人にも大好評であった。



【「いらっしやいませ」】

(4)南米の他諸国との連携

○エクアドル キト補習授業校との連携

平成25年8月24日に、エクアドルのキト補習授業校へ巡回指導に赴く機会を得た。前年度までは授業を参観し、助言をするのみの内容であったが、現地からの要望により私自身も授業をさせていただき、その後研究協議を行うという新たな取組を実践した。小学部1年生を対象に国語の説明的文章「くちばし」の授業を行った。在籍する5名のうち、日本語を母国語としない児童が2名という状況の中で、苦慮する面もあったが、黒板に掲示する図やフラッシュカードを工夫することで概ねイメージどおりの授業を展開することができた。何よりもキト補習授業校の先生方の思いや悩みを共有し、協議することができたことは貴重な体験であった。



【エクアドルの子供達と一緒に赤道をまたぐ】

4 コロンビアの生活全般に関わって

一定期間、外国で生活をするには、現地の文化や生活スタイルを進んで理解しようとする姿勢が大切である。ここでは、日本人学校の活動以外で体験したコロンビアの生活について紹介する。

(1)コロンビアでの生活全般について

コロンビアでの生活は、治安の問題から常にエスコルタ（警護員）と共に行動することが求められる。派遣当初は戸惑うことが多かったが、意思疎通が図れるようになるにつれて苦にならなくなった。むしろ、様々な情報を知らせてくれたことに心より感謝している。

(2) 言語について

公用語はスペイン語である。英語は空港や高級ホテル以外では全く通じない。初めて接する言語でもあり、慣れるまでは苦労したが、発音はローマ字に近く語彙も少ないため習得しやすい。

(3) 食生活について

牛肉、豚肉、鳥肉やジャガイモ、トウモロコシ、豆の料理が中心である。様々な種類の米も手に入る。マンゴーやパイナップルなどの南国のフルーツが驚くほどの安価で食べることができる。

(4) ボゴタ市内及び近郊、その他の都市について

派遣期間中、コロンビアの習慣や文化に触れることを目的にできるだけたくさんの地を訪れた。様々な経験を通して、コロンビア人は誠実で親切であることや、自己の危機管理をしっかりとすれば、安心して訪れることのできる場所がたくさんあることを実感した。その一部を紹介する。

①モンセラテの丘 …… ボゴタの東には標高3000m級の山が連なり、そこにモンセラテの丘がある。市内から気軽にケーブルカーやロープウェイで登ることができる人気の観光スポットである。頂上にある教会の前の展望台からはボゴタ市街のスケールと空の近さを体感することができる。



②シパキラ …… ボゴタから日帰りで行くことができる名物観光スポットの「塩の教会」はシパキラという小さな街にある。もともと塩鉱山だったところをカトリック教会にしたこの場所は、カラフルなLEDで幻想的に照らされている。人の手で掘られたとは思えないほど、広大な洞窟内に広がる空間は圧巻で、14のエリアに十字架と祈祷台がある。



③カルタヘナ …… カリブ海沿岸に位置するボリーバル県の県都であり、コロンビアで最も観光客の多い都市である。かつて海賊から街を守るために周囲を城壁で囲んだ。スペイン植民地時代の様々な歴史的建築物が数多く現存することから、1985年にユネスコの世界遺産に登録された。熱帯気候で平均気温27.7℃。年間を通じて18℃～30℃と温暖である。



④メデジン …… ボゴタに次ぐ人口約250万人のコロンビア第二の都市である。西部アンティオキア県の県都である。メデジンからバスで1時間半程の近郊のグアタペという街には、ラ・ピエドラ・デル・ペニョールという一枚岩があり、階段で頂上まで登ることができる。



⑤レティシア …… アマソナス県の県都で、コロンビア最南部にある都市でもある。アマゾン川の主要な港のひとつである。アマゾン川の左岸に位置し、コロンビアとブラジル、ペルーとの国境が交わる場所にある。自転車でブラジル領内に入ったり、アマゾン川クルーズでピンクイルカを見たりすることができる。



⑥サンアンドレス島 …… コロンビア本土の北西700kmに位置し、ニカラグアのすぐ近くにある。7色の海と呼ばれるエメラルドグリーンの海が広がっている。かつて海賊モーガンが島の洞窟に宝を隠したという伝説がある。人口4500人ほどののんびりとした雰囲気の中で、ダイビングなどのマリンスポーツを楽しむことができる。



⑧サンタ・マルタ …… 北部に位置する都市、マグダレーナ県の県都である。カリブ海に面しサンタ・マルタ山脈に囲まれている。この地域一帯の観光、歴史、文化の中心地で主要港も備えている。「解放者」の異名で知られる革命家のシモン・ボリバルは1830年にここで亡くなった。北へ34kmのところにあるタイロナ国立自然公園は、国内で最も重要な生態保護区である。



⑨パスト …… ナリーニョ県にある街。長年人々により受け継がれてきた伝統と文化がある。「黒と白の祭」では、黒人と白人がそれぞれ肌の色を反対の色に塗り仮装をする。人種に関わらず共存していくというメッセージが込められている。断崖絶壁に建てられたラス・ラハス協会はカトリックの伝統を重んじたとても美しい教会である。



⑩カニョ・クリスタル …… メタ県のマカレナ山脈には、世界屈指の美しい川が流れている。カニョ・クリスタルは5色に輝く川、世界一美しい川等と形容される。水位が落ち着いた頃、マカレニア・クラビゲラと呼ばれる水中の植物が真っ赤に染まることにより信じられない絶景が姿を現す。



⑪ビジャ・デ・レイバ …… ボゴタから車で4時間ほどの場所にある。中世の建物が現存する美しい景観が魅力の街で、中心部には有名な広場がある。近郊には発掘された化石を収蔵する博物館やワイナリーがある。近くには、焼き物の村ラキラがあり、様々な陶器を購入することができる。



(5)おわりに

コロンビアでの3年間の生活は、私にとって大きな財産となった。治安が劇的に改善されたとはいえども、日本とは全く違う環境での生活は制約も多いものであった。しかし、その中でも児童生徒のために今できることは何かを考え続けた3年間であった。前年度の内容を踏襲するだけではなく、「こうすれば、もっとよくなるボゴタの教育」を常に考えながら改善を心掛け、教育活動に取り組んだ。本報告はその一部である。今後、ボゴタ日本人学校の教育活動が更に充実することを願っている。私も今後は管理職として、世界に羽ばたく後進の指導に当たりたいと考えている。

最後に、在コロンビア日本国大使館や日本文化協会、木曜会の皆様をはじめ、子供達の健やかな成長のために御尽力くださった全ての方々に心より感謝申し上げます。